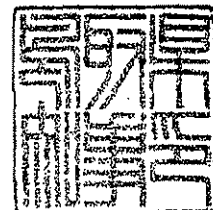




国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所長 内藤 正彦 様

鳥取県知事 片山 善博



大橋川改修事業環境調査計画書(案)について(回答)

平成17年4月27日付国中整出水保第8号で意見照会のあったこのことについて、当県の意見は、下記のとおりであります。

記

1 総括的事項

環境調査の実施にあたっては、米子市、境港市及び地域住民並びに関係者の意見を十分聞き、その意見に配慮しながら調査、予測評価をされたい。

2 調査項目及び調査予測手法

(1) 調査計画の基本的考え方について

ア 工事の実施に伴う「大気環境」、「廃棄物」及び「水環境」の調査及び予測については、改修計画が決定された段階で別途検討することとされているが、今後どのような手順で実施されるのか示されたい。

イ 本庄工区について、「中海に関する協議会」の決定方針に基づき完了された状態を取り扱うこととされている。本庄工区の堤防開削終了後の環境を把握した後でなければ、流動モデル、水質モデルの再現性は確認できないと考えるが、どのように確認されるのか明らかにされたい。

ウ 大橋川の流動変化は、中海の水環境(水底の泥土)に影響を及ぼすと記載されているが、予測評価項目にこれらの項目が記載されていない理由、さらには、環境調査項目の選定理由に関して、大橋川改修後の水環境に係る「生活環境へ影響を及ぼすおそれ」の具体的内容を明らかにされたい。

(2) 水環境の調査及び予測の手法について

ア 洪水時、高潮時及び洪水と高潮が重なった場合のそれぞれについて、米子、境港両市沿岸域での水位測定点を追加し、予測されたい。また、それを踏まえて弓ヶ浜半島の地下水の水位及び水質が現状からどう変動するのかを明確にし、地下水の水位及び水質に変化が認められる場合は、農作物への影響など水利用への影響を評価されたい。

イ 中海の貧酸素水塊は水生生物分布に大きな影響を及ぼしている。中海の環境調査項目には溶存酸素が含まれているが、貧酸素水塊についても着目し、その動きを予測、評価されたい。

ウ 富栄養化に関する調査について、出水時における流入河川からの負荷量の調査方法をわかりやすく示すとともに、大橋川の流下能力の増大に伴う中海への流入負荷量の変動を明らかにされたい。

写

(3) 動植物及び生態系の調査及び予測の手法について

ア は虫類、両生類は、冬季を除く3季を調査する計画となっているが、カスミサンショウオ、ニホンアカガエルは冬季が産卵時期であり、生物相と生息場の把握には、調査対象生物の生態に合わせた調査時期、調査方法を検討されたい。

イ 絶滅危惧種であるツツイトモ、リュウノヒゲモが彦名付近で確認されていること、生態系典型種であるアサリ、ウミトラノオ及びコアマモが葭津などで確認されていることから、中海沿岸域における調査 予測を追加されたい。

ウ 水産有用生物であり、中海の典型種ともいえるエビ類（クルマエビ、ヨシエビ）、カニ類（タイワンガザミ）及び魚類（ヒラメ、ボラ、サヨリ）を調査対象種に加えて、予測、評価されたい。

担当：鳥取県生活環境部環境政策課環境立県戦略担当
電話 0857-26-7205 ファクシミリ：0857-22-4240